

第4回 横浜市立病院経営評価委員会議事録	
日 時	平成26年2月19日(水) 19時00分～20時30分
開催場所	横浜市健康福祉総合センター 3階研修室
出席者	〔委員〕 田中滋委員長、五十嵐邦彦委員、篠原弘子委員、藤井清孝委員、古谷正博委員、松原由美委員 〔病院経営局〕 高橋俊毅病院事業管理者、城博俊病院経営局長、新井勉計画推進担当部長、他 〔市民病院〕 石原淳市民病院長、小松弘一市民病院副病院長、中澤明尋市民病院副病院長、石川崇子市民病院副病院長、岡田隆雄市民病院管理部長、他 〔脳血管医療センター〕 山本勇夫脳血管医療センター病院長、加藤利彦脳血管医療センター管理部長、他 〔みなと赤十字病院〕 四宮みなと赤十字病院長、他
欠席者	〔委員〕 高橋由利子委員、笈淳夫委員
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 事	(1) 脳血管医療センターの病院名称について (2) 市民病院の再整備について (3) その他
決定事項	1 横浜市立病院経営評価委員会に部会を設置する。 2 部会長は、藤井清孝委員とする。 3 部会の設置に伴い横浜市立病院経営評価委員会運営要綱を改正する。 4 諮問事項について部会において審議の後、経営評価委員会から答申を受ける。
議 事	開 会 ○原田課長 定刻になりましたので、これより第4回目の横浜市立病院経営評価委員会を開催させていただきたいと思います。 なお、本委員会につきましては、これまでと同様でございますが、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づきまして、公開という扱いにさせていただきます。 また、本日でございますが、笈委員、それから高橋委員のほうから、所用のため欠席させていただきますとのご連絡をちょうだいしてございますので、ご報告させていただきます。 お手元の資料をご確認いただきたいと思います。本日の資料でございますが、まず脳血管医療センターの病院名称に関しまして、資料1といたしまして、まず諮問書、これはA4、1枚でございます。それから脳血管医療センターの医療機能拡大に関しての、パワーポイントの印刷資料。続きまして、「脳血管医療センターの病院名称変更について」とするA4、1枚の説明資料、それから経営評価委員会運営要綱の変更案をお配りしてございます。また、市民病院の再整備に関しまして、資料2といたしまして、「市民病院の再整備用地等について」といたします、A3の資料をご用意いたしておりますので、ご確認いただければと思います。 それでは会議に当たりまして、高橋病院事業管理者からごあいさつを申し上げます。 ○高橋病院事業管理者 先生方、今日はどうもありがとうございます。横浜市病

院事業管理者の高橋でございます。委員の皆様方には大変お忙しい中、毎回当該委員会へご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

さて、中期経営プランの2年目である平成25年度も、あとわずかでございます。市民病院・脳血管医療センターも今年目標達成に向けて一生懸命取り組んでいるところでございます。また、みなと赤十字病院は指定管理者制度のもと、より質の高い医療サービスを提供すべく努力していただいております。委員の皆様方には今後、平成25年度取組結果について評価していただくこととなりますが、自身の取組を客観的に見つめ直し、よりよい病院としていくために、ぜひさまざまなご意見を賜りたいと思っております。

今回の委員会では、脳血管医療センターの病院名称と市民病院の再整備用地等についてご意見をいただきたいと考えております。特に脳血管医療センターにつきましても、これまで医療機能拡大・拡充に伴いましてやってきました。したがって、その流れとして病院名称の検討に着手してまいりたいと考えております。今日、私どもの考え方をご提示させていただきますが、部会の委員会の皆様方からの専門的なご意見をいただきたいと考えております。本日、委員の皆様方におかれましては、忌憚のないご意見をいただきますよう、ぜひよろしくお願いいたします。

○原田課長

では委員長、お願いします。

議 事

(1) 脳血管医療センターの病院名称について

○田中委員長

では、改めましてこんばんは。これより第4回横浜市立病院経営評価委員会を開催いたします。いつものことですが、委員、事務局及び会場の皆様には議事の円滑な進行にご協力をお願いします。

早速議事に入ります。今、高橋様からご説明がありましたように、2つの議題を取り扱います。脳血管医療センターの病院名称についてと、市民病院の再整備です。2つは別々な議題ですので、分けて話します。

初めに、(1)「脳血管医療センターの病院名称について」、事務局から説明をお願いします。

○原田課長

それでは、座ったままで失礼いたします。資料1をご覧くださいと思います。この諮問書につきましては、原本を委員長席にお配りさせていただき、各委員にはお手元にご写しをお配りしております。よろしく申し上げます。

横浜市立脳血管医療センターの病院名称に関する諮問でございます。脳血管医療センターの病院名称につきまして委員会のご意見を賜りたく、横浜市病院事業の設置等に関する条例第8条の規定に基づきまして、諮問するものでございます。

諮問の理由でございますが、脳血管医療センターは、第

2次横浜市立病院中期経営プランに基づき、経営改善に向け、医療機能拡大の取組を行ってきております。これらの取組により、脳血管医療センターを受診される方も脳血管疾患以外の疾病がふえており、市民が安心・納得してご利用できるよう、医療機能拡大に合わせた病院名称に変更を計画しております。病院名称の検討に当たりましては、有識者によるご検討を賜るため、横浜市立病院経営評価委員会に諮問することとさせていただいたものでございます。つきましては、横浜市が経営する医療機関の名称を検討するという趣旨に基づきまして、医療関係団体、地域の方を委員に加えて専門部会を設置するとともに、広く有識者や市民、利用者の意見を聴取してご検討いただきまして、答申をお願いできればと考えてございます。

続きまして、脳血管医療センターの医療機能拡大につきまして、パワーポイントに基づきましてご説明させていただきたいと思っております。

○加藤センター管理部長 脳血管医療センターの医療機能拡大について説明させていただきます。

脳血管医療センターのこれまでですが、平成3年10月、友愛病院再整備事業として脳血管医療センターは始まりました。この中で、高齢者人口の増加に伴い、寝たきりの原因となる脳血管疾患の増加が予想されるということで、寝たきりを防止し、患者とその家族にとって日常生活の質を向上させることを目的として、この病院を作ろうということとなりました。その中で、対象疾病としましては、脳血管疾患を主体に変性性神経疾患（神経難病）にも対応するというので再整備を始めました。その結果、診療科については、従前は神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科を中心に、300床の病床として運営してきました。

運営を始めたのですが、当初、患者数はどんどん増えてきまして、新入院患者についても1900人まで増えてきましたが、その後いろいろなことがありまして、1200人まで減りました。その後また新入院患者は増えてきましたが、一方で平均在院日数も減っていく中で、病床利用率は平成23年度には65.3%まで落ちてきたという状況になりました。

そういう状況がありましたので、経営委員会へ諮問しました。経営委員会からは、脳卒中は地域医療需要に合わせた病床数へ削減の上、地域医療ニーズを満たせるよう病床の有効活用を検討すべきだと。医療機能面の見直しに合わせて、病院名称も変更し、対外的にも生まれ変わったというメッセージを出す工夫も必要だという答申をいただきました。

これに基づきまして、「第2次横浜市立病院中期経営プラン」を策定いたしました。その中で、脳血管の医療機能の維持・向上に努めるとともに、脊椎脊髄疾患、神経疾患に対する医療機能拡大を図り、医療機能の充実に合わせて、病院名称について見直しするというプランを今実行しているところでございます。

プラン1年目の平成24年度の取組としまして、診療体

制としましては、脳神経血管内治療科を独立させるとともに、脊椎脊髄外科を新設しました。また、医療機能の向上のために、3テスラMRIを導入するとともに、手術室について、今まで1室だったものを3室に増やしたということを行いました。

平成25年度の取組としましては、疾患別のセンターをつくるとともに、回復期リハビリテーション病棟の増床工事を今年度行いまして、91床から102床への増床を行い、300床稼働に今なっているところでございます。

その結果、平成23年度から平成25年度までの入院患者数の動きなのですが、神経内科・脳神経外科・血管内治療科につきましても、四半期の同期で比べていただければ、平成24年度の80名が今年度は96名、さらには、現在のところ第4四半期を迎えているのですが、94名が98名という形で増えてきています。特に脊椎脊髄外科につきましても、14名だったものが、現在、毎日38名程度の入院患者が入っているという状況になってございます。

外来患者についても同じく順調に増えてきているという状況で、外来患者も190人、もうすぐ200人を超えるという状況になっております。今まで脳血管医療センターは、入院患者については救急車で運ばれてくるという状況でしたが、今は外来患者の中から入院患者もだんだんと出てきているという状況に変わってきてございます。

収入につきましても、神経疾患についても徐々に増えてきていますし、脊椎についても毎四半期ごとに2億円を超える、年間では9億円ほどの収入が確実に出てきているという状況になってきてございます。

実際の新入院患者の状況なのですが、脳血管疾患についてはやはり一番大きく600名程度ございますが、脊椎についても200名程度が4月から12月までで入院しているという状況に今なっております。

来年度の取組なのですが、脳血管疾患医療につきましても、神経内科医の常勤医について市大から3名派遣していただけることになりましたので、さらに充実するとともに、神経難病につきましても拡充していきたいと考えてございます。

脊椎脊髄疾患についてなのですが、これについては教育委員会・医師会とも連携して、小・中学校の健診についても技術的支援や啓発活動を脳血管医療センターが中心となってやっていこうと考えています。また、脊損の患者につきましても、市内では対応する施設がないということで、脳血管医療センターが中心となって対応していきたいと考えているところでございます。

また、臨床研究につきましても環境を整えているところです。「臨床研究部」も新設いたしまして、国とか民間企業、外部からの研究資金の導入も図っていきたいと考えてございます。

そのようなことをやる中で、第2次中期経営プランに基づく医療機能拡大の取組により、脳血管医療センターを受診される方も脳血管疾患以外の疾患が増加しています。そ

	<p>ういう患者さんにとっても、市民が安心・納得して利用できるよう、医療機能拡大に合わせた病院名称の変更を行っていきたくと考えております。今お願いしたところですが、経営評価委員会についても、名称についての検討を諮問いたしまして、検討に当たっては専門部会を設置していただき、専門部会に医療関係団体・地域の方の委員を加えていただき、また、専門部会では外部有識者、市民・利用者の意見を幅広く聞いていただき、答申していただければと思っております。</p> <p>「脳血管医療センターの病院名称変更について」というペーパーがございますので、これに基づいて今後の進め方の案についてご説明させていただきます。</p> <p>1については今説明したとおりでございます。2の「検討の進め方」なのですが、検討スケジュールの案ですが、本日、部会の設置と諮問させていただきましたので、それ以降、7月ぐらいまでに答申をいただければと思っております。答申をいただいた後、9月以降、条例手続を開始いたしまして、1月の正月休みの期間に準備して、名称を1月1日から使用することができればと考えてございます。</p> <p>裏面をごらんください。3「脳血管医療センター名称部会について」ということで、名称検討のための専門部会につきましては、先ほどの諮問書でもお願いしたとおり、経営評価委員会及び外部委員を加えて検討していただければと思っております。案としまして、ここに書いてありますように、経営評価委員会からは篠原委員、藤井委員、古谷委員に参加していただき、外部委員としましては病院協会会長と、磯子区地元関係者について、磯子区のほうに人選を依頼したいというのが案として書かれてございます。また、専門部会での検討の進め方の案ですが、第1回名称部会を3月に開催していただき、それ以降、脳血管疾患・神経疾患・脊椎脊髄疾患の専門家への意見聴取や市民へのアンケートをとりまして、その結果を踏まえまして名称部会で名称案を決めていただければと考えてございます。その案を経営評価委員会に出していただいて、最終的に経営評価委員会で名称案を選定していただきたいと思いますと考えてございます。</p> <p>説明は以上です。よろしくお願いたします。</p> <p>○田中委員長 ありがとうございます。脳血管医療センターの病院名称について検討するための部会を設置することになります。部会の設置のあり方でも結構ですし、今ご説明いただいた脳血管医療センターの経緯・現状についても結構ですが、何か質問や意見があればお願いたします。どうぞ、古谷先生。</p> <p>○古谷委員 横浜市医師会の古谷でございます。先ほどご説明の中に、平成26年度の取組の中に医師会ということをお願いしたので、私どもからも少し追加させていただきたいと思っております。この側弯症ということに関しましては、学校健診の中では1つのチェック項目になっておりますが、実際に学校の校医の先生で健診をなさるのは内科・小児科の先生がほとんどであるということ。それから1人</p>
--	--

	<p>の生徒さんに余り多くの時間は割けないということもありまして、側弯症検診をいかに精度を上げ充実させていくかということは長年の課題になっておりました。不幸なことに、川崎や大阪で学校健診の不十分なために側弯症の発見がおくれたという訴訟があったこともありまして、学校医の側からも、また教育委員会のほうからも、何とか改善していきたいということがございまして、相談してまいりました。その中で脳血管医療センターに脊椎脊髄病センターという形での専門医がおられるようになったということで、私ども医師会の学校医の部会と教育委員会、学校保健会で相談いたしまして、側弯症の検診の新しいシステムを横浜の方式としてつくりたいと考えております。家庭でのアンケートといえますか、調査票に記入していただいたものを現場の養護教諭がチェックし、学校医に伝えて、専門医である整形外科医への受診が必要なものは学校から医療受診票を出していただいて、それで地域の整形外科医がチェックして、さらに治療が必要、相談したいという場合に脳血管医療センターのほうで二次検診の受け皿をやっていたかというようなことを、今相談を進めております。そのような中で、ぜひ大きな役割を果たしていただく上で、脳血管医療センターというお名前でももちろん構わないわけですが、やはり脊椎の患者さんをお送りするに当たって、脳血管医療センターというのが一般の市民の方に「あれ？」という感じも持たれるかと危惧しておりますので、早期に何らかの適切なとか、わかりやすい形での名称変更を進めていただければと、私どもは考えております。</p> <p>○田中委員長 事情の説明をありがとうございました。他にいかがでしょうか。今日のここは直接名称を討議する場ではないので、それに至るための事前の事情の把握とか大きな考え方があればお願いします。</p> <p>名称を考えるに当たって、機能ではない名前も検討していただいて構わないのですか。例えばみなとみらい病院のように、日本の病院は精神科病院を除くと余り機能の名前がついていないですよ。むしろ抽象的な、それこそさっきの友愛病院などのほうが多いと思うのですが、そういうタイプも含めて検討していただくことになるのですか。</p> <p>○加藤センター管理部長 基本的にはそういうのも含めまして、機能の名称か、それともそういう抽象的な名称か、それでもなければ地名の名称とか、いろいろなものがあると思いますので、その辺も含めて部会のほうで幅広く検討して、また市民の意見とかも参考にしながら検討していただければと考えてございます。</p> <p>○田中委員長 なるほど。縛らずに、機能の名前の中から選んでくださいではなく、地名であれ、少し抽象的な、むしろ日本の病院はそっちのほうが多いと思うのですけれど、そういうタイプも含めて委員の方々に検討していただくスタンスですね。</p> <p>○加藤センター管理部長 そうです。</p> <p>○田中委員長 確認しました。ありがとうございます。</p>
--	---

	<p>どうでしょうか。経営状況でもいいですよ。では、松原委員。</p>
○松原委員	<p>名称とは関係なくなってしまうのですが、外来患者をどのようにとらえていくのか。方向性としてはもっと外来患者を増やしていきたいと思っていच्छやるのか、もっと入院機能に特化していく方向でいच्छやるのか、その方向性についてもしあれば教えてください。</p>
○加藤センター管理部長	<p>外来患者をどんどん増やしていくつもりはないのですが、やはり300床の病院として、140とか、そのくらいの患者数ですと、外来からの入院というのは上がってこないという状況でしたので、300床を埋められるというか、それくらいの患者数は必要かなと。200人~300人くらいの患者には増やしていかないと、入院患者を外来から入院へと上げていけないのかなとは考えてございます。</p>
○田中委員長	<p>脊椎脊髄外科をつくるに当たって、ドクターがどうなってきたかはさっき説明がありましたが、看護の方々も増やしたのですか。それとも科を変わっていたのですか。</p>
○加藤センター管理部長	<p>基本的には科を変わっていたということ、病棟の中での異動という形で対応しています。ですから、看護師を極端に増やしたとか、そういうことではなしに、300床をフル稼働に持っていくことによって増収を図るというようなことで、増やした看護師はオペ室の看護師を少々増やしただけです。</p>
○田中委員長	<p>手術室が増えた分それは必要だったけれど、病棟は配置転換で賄えた。</p>
○加藤センター管理部長	<p>そうです。</p>
○田中委員長	<p>ありがとうございます。脊椎脊髄関係の横浜市内のほかの病院の動向はわかるのですか。競合状況とか、ここは突出して多いとか、それらの情報は何かありますか。</p>
○加藤センター管理部長	<p>私どもの脊椎脊髄につきましては、側弯症とか、脊髄のヘルニアの病院は横浜市内に結構あるのですが、そういうところについては競合するというので、余り競合しない分野、今までは大学病院が担っていた分野を脳血管のほうに移してきたということですので、今まで横浜市に足りなかった医療の提供と考えてございます。</p>
○田中委員長	<p>目標としてはそれを掲げているわけですね。</p>
○加藤センター管理部長	<p>はい。そういう意味では、先ほど医師会長からもご説明がありましたように、横浜市でやってこなかった側弯症とか、そういう医療について積極的に取り組んでいきたいと考えてございます。</p>
○田中委員長	<p>どうぞ。</p>
○古谷委員	<p>脊髄損傷患者への対応強化という、非常に心強い1つ項目を上げていただいているのですが、私はラグビー協会の仕事をしておりまして、一番怖いのが頸髄損傷と頭の外傷なのです。いろいろな専門家のお話を聞きますと、4時間以内に必要なものへは手術の対応ができた頸髄損傷は大分回復が違うという話も出ておりまして、そのような形で急性期の対応を積極的にやっていただけると受け皿があると現場としては非常に心強いのですが、その辺の急性期対</p>

	<p>応ということに関してはいかがでしょうか。</p> <p>○山本センター病院長 もちろん今キャパシティの問題がありますから、急性期すべてということは難しい問題があると思います。現在のところは、連携が非常に重要ではないかと考えております。横浜市立大学には今、救急を扱っているセンター病院が10分以内のところにありますので、脳卒中は、連携をもう少し密にしようということで、急性期の場合、今のマンパワーですべての、例えば夜間の急性期の手術までは対応が難しい問題がありますので、連携システムをとりながら、逐次、急性期にも対応できるようにということで、この4月から始まるわけです。脊損患者に対しても同様に、連携を本格的に急性期の受け皿をとるところまでは現在考えていませんが、中期的にはそういう方向性に持っていきたいと。とりあえず大学との連携も今構築しているところなものですから、その辺から始めていきたいと今考えております。</p> <p>○田中委員長 ○藤井委員 藤井先生。 今、連携ということが言われたものですから、一応、方向性としては、今後も神経系とか脊椎脊髄、あるいは末梢神経とか変性疾患、そういったものを中心に進めていかれるということは、方針としてはもう決まっているということですね。そうすると、例えば脳卒中なんかでも、生活習慣病みたいなものとか循環器とか糖尿病とか、いろいろなことがあって、今までそれに大分苦労されてきたと思うのですが、そういったところをほかの市立病院とか市民病院とか、いろいろなところと連携して今後もやっていかれると考えるとよろしいわけですか。</p> <p>○山本センター病院長 その通りで連携が大事ではないかと考えております。それから先ほど1つの例として、今、神経内科を充実させるということで、この4月から3人増員するわけなのですが、それにより脳卒中だけではなくて神経疾患、特に慢性的な神経疾患、神経難病を扱うと。これも大学との連携ということは今考えておりますので、そういう中で患者を増やすとか、要するに今までは脳卒中に特化した病院だということなのですが、やはり脳卒中の発生頻度というのは限界があります。ですから、今後の方向性として、今、藤井先生がおっしゃったような意味では、これは私自身の個人的な考えもありますが、神経疾患全体を取り扱う1つのモデルとして、例えば都立神経病院がありますが、これは特に急性期のことは余りやっていないわけです。しかし当センターはそもそも脳卒中専門病院として始まったものですから、脳卒中に特化したよい病院だという特殊性は持っていきたいと。それから脊椎脊髄につきましては、みなと赤十字病院の四宮院長は脊髄の専門家ですが、脊髄の中でも脳血管医療センターというか、名称はこれから変えるのでしょうか、そこに「これは」というものをつくっていきたい。その1つが、例えば側弯とか、頸損のことも今後考えていきたいと。それから神経疾患、神経難病的なもの、それと、これから高齢者になりますとパーキンソン病等々があると思います。したがって、もう少し先を見れ</p>
--	---

	<p>ば、それに対する外科的な治療、機能的な脳外科ということも含めて、神経に特化した、脳卒中だけでなく、そういう方向性ということで、今考えながら進めているというのが現状でございます。</p> <p>○田中委員長 イメージがつかめましたか。病院のイメージがないと、そもそも名称も考えられませんよね。</p> <p>○藤井委員 頸損とか側弯症とか、いろいろと出てきましたけど、やはり数からすれば圧倒的に脊椎脊髄はヘルニアとか一部腫瘍とか、そういったものだろうと思います。でも、ぜひそういう受け皿は必要だろうと私も思います。</p> <p>○田中委員長 このスライド 11 の退院数を見ても、側弯はまだ 25 と、数は少ないですよ。しかし病院として特殊性を、そこで機能をうたうことができます。ほかの患者さんを診ないわけではない。</p> <p>○篠原委員 どうぞ、篠原委員。 パワーポイントの資料なのですが、3 ページに「運営状況の推移」というのが出されているのを拝見しまして、この在院日数がちょうど 40 日を切るあたりが分岐点になっていて、新入院が増えているというような推移が読み取れるのですが、それでも病床の利用率はそんなには上がっていないという感じなのです。これは、在院日数は病院としてはさらに短縮する方針があるのかどうかということと、そうしますと新入院がもっと増えなければ病床利用率は上がらないと思うのです。それは先ほど 300 床が埋まることを考えた外来患者数を想定しているというお話もありましたが、この在院日数と入院患者の確保数というか、そのあたりはどのような目標を考えていらっしゃるのでしょうか。</p> <p>○加藤センター管理部長 平成 23 年度は 1820 人でしたが、今年度は 2200 人ぐらいにいくのかなと思っています。そういう意味では、実際には 3000 人近くまでどんどん上げていかないと、今の診療報酬の体系の中では収支がよくなっていかないと自覚しています。ただ、ここに書いてある日数については、回復期リハビリテーション病床の日数と一般病床の日数と全部合わせた日数ですので、実際には経営管理という面では、回復期リハビリテーションの在院日数を何日にするのか、急性期病院の日数を何日にするのかと、分けてきちんと目標を立てて今は管理している状況です。ですので、一概には言えませんが、急性期の部分についてはさらにもう少し短くしていかなければいけないですし、回復期についてはその患者さんに合った長さ、最大 6 カ月まで見ることができますので、そういう中で、逆に回復期についてはできるだけ満床に近いような運営をしていかなければいけないというような病床運営をしていきたいと考えているところでございます。</p> <p>○篠原委員 ○高橋病院事業管理者 ありがとうございました。 基本的なスタンスなのですが、今の脳血管医療センターは黒字を目指すものではありません。あくまで使命といたしますか、機能といたしますか、そこが重点です。今実際、約 20 億円繰入金があって、10 億円の赤字ということでした</p>
--	---

	<p>ので、せめて繰入金のレベルで維持できるようにすべきではないかということが1つの大きな前提です。ここでやっていることが横浜市民に支持されるというか、そういう状態に早くなりたいたいということからこういう経営改善という、一応、名目は経営改善ですが、機能も含めて改善し、それにふさわしい名称をいただきたいと考えております。</p> <p>五十嵐先生は何か、よろしいですか。</p> <p>いや、結構です。</p> <p>部会の運営の仕方についても、何かご質問やご意見はありますか。どうぞ。お願いします。</p> <p>いろいろなアンケートとかをおとりになるようですが、例えばいろいろな多くの意見が出て、絶対これがいいとかという多数決のような格好でここでできたりしても、やはり総合的な立場から、例えば市民の立場とか、あるいは医療従事者の立場とか、あるいはこれから20年、30年くらい名称を変える必要がないような、あるいは将来品ぞろえを増やすような場合でもいけるような、そういう形にしてもよろしいということなのでしょうか。</p> <p>私もそれは気になりました。このアンケートは何かを決定するためのものではないですよ。どうぞ。説明してください。</p> <p>今回広く意見を求めるというのは、実は市会からも、この名称変更について説明したところ、今までの専門病院としての経過もあるので、広く市民の意見を聞くそのプロセスをきちんととってというご指導をいただいています。ただ、先生のおっしゃるとおり、多数決で決めるという筋合いのものではないと思っております。今後目指す病院の機能、それからそれが正しく表現されているかどうか。それがまた、生まれ変わった新しい病院としてふさわしいかどうかということ合理的に判断していただいて、当然聞いた意見も参考にさせていただきながらご答申をいただければと考えております。</p> <p>そうでないと部会をつくる意味がない。アンケートも無作為に対象をとるのか、それともだれもが自由に投票していいか。後者だと組織票が入る可能性もあります。どういうふうにされるのですか。</p> <p>まず、病院をご利用している方のアンケートは必ず、病院に設置するような形でご意見をいただくという、これは1つ必要かと思うのです。市民へのアンケートにつきましては、横浜市にはeアンケートということで、登録されている方が1900人いらっしゃいまして、いろいろな市政上の問題について問いかけしてインターネットで答えてもらうという仕組みに登録されている方がいらっしゃいますので、そういう方々を対象にアンケートをとっていきたいと思っています。</p> <p>大いに参考にはするけれども、部会の最終決定を縛るところまではいかないとの理解です。ありがとうございます。</p> <p>この名称問題について、ほかはよろしゅうございますか。できるだけ未来が見えるような方向がつくといいです</p>
<p>○田中委員長 ○五十嵐委員 ○田中委員長</p>	
<p>○藤井委員</p>	
<p>○田中委員長</p>	
<p>○城局長</p>	
<p>○田中委員長</p>	
<p>○城局長</p>	
<p>○田中委員長</p>	

	<p>ね。</p> <p>それでは部会の設置に関して、経営評価委員会の要綱改正が必要なようです。説明をお願いします。</p> <p>資料の「横浜市立病院経営評価委員会運営要綱（案）」をご覧くださいと思います。本委員会運営要綱に部会の設置等に関する規定を追加するものでございます。第5条と、それから裏面の第6条、アンダーラインを引いた部分でございます。まず、第5条が部会の設置に関するものでございまして、委員会に部会を置くことができる旨の規定、それから委員の任命に関するもの、委員の任期に関するもの、部会長の規定に関するもの、こういった規定を設けてございます。それから裏面の第6条でございますが、部会の運営に関する規定でございます。部会の招集及び部会の議長についての定め、こういったものを追加してございます。ご了承いただけましたら、この要綱で今後運営していきたいと考えてございますが、いかがでございますでしょうか。</p> <p>要綱の改正案がでていますが、これについてご意見はございますか。この案でよろしゅうございますか。私も結構だと存じます。</p> <p>では、本日からこの要綱を施行することにしまして、案ではなくなるわけですね。</p> <p>案をとっていただければと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>あわせまして、第5条に、部会の設置の中に部会長の規定がございまして、部会長について委員長のほうからご指名をいただければと考えております。</p> <p>先ほど配られた資料の委員、地元の方を除いて4名の方が決まっていますが、この中で私としては藤井先生に部会長を務めていただきたいと存じます。先生、いかがでございますでしょうか。ご快諾いただいたということで。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>では、3月から3回ほどお願いいたします。</p> <p>はい。</p> <p>(2) 市民病院の再整備について</p> <p>では、議事の2つ目「市民病院の再整備について」に移ります。資料の説明をお願いします。</p> <p>それでは資料2、A3の「市民病院の再整備用地等について」をご覧くださいと思います。再整備の用地につきましては、昨年11月末に一部新聞報道がありました段階で郵送でお知らせをさせていただいているところでございますが、改めてご説明させていただきたいと思っております。</p> <p>まず、「趣旨」でございますが、市民病院の再整備につきまして、現在の三ツ沢公園の一部及び隣接する民有地、これは古河電気工業株式会社の社宅でございます。この場所を移転候補地といたしまして、地権者との間で今後、用地取得に向けた本格的な交渉を行うものでございます。</p>
○原田課長	
○田中委員長	
○原田課長	
○田中委員長	
○原田課長	
○田中委員長	
○藤井委員	
○田中委員長	
○原田課長	

これまでの「経過」を簡単に振り返っておりますが、市民病院の再整備につきましては、これまで4方面5カ所の候補地を検討してきましたが、平成25年3月の「横浜市立病院再整備検討委員会」の検討状況報告書におきまして、「三ツ沢公園について、病院敷地との交換による再整備など都市公園法等の課題解決に向けて引き続き検討を行う」とされてございました。これに基づきまして、公園を所管いたします環境創造局をはじめとする市内の関係局と、公園面積を減少させないための方策とか代替地等に関する検討を進めてきたところでございます。なお、もう一カ所候補地として残ってございました羽沢地区については、引き続きまちづくりの方向性の検討に時間を要する見込みであることから、今回は三ツ沢公園での整備に向けて民有地の取得及び当該用地での整備に関する具体的な検討を進めることとしたものでございます。

3「候補地」でございます。その下の「概要」の表と、右下の〈全体図〉をあわせてご覧いただければと思います。A、B、Cと3つありますが、Aが三ツ沢公園の一部、野球場及びその周辺でございますが、全体図の中では右下の卵型の点線で囲んである中の一番右の部分です。「三ツ沢公園の一部」と記載している部分ですが、この部分は約1万3000平方メートルでございます。それからその左隣になりますが、Bの民有地、これは社宅でございますが、この部分が約1万1200平方メートルでございます。そのBの民有地から道路を挟んで、図では下になりますが、同じく社宅でございますが、市の民有地が5600平方メートルでございます。合わせて3万平方メートルということになりますが、この用地を活用して再整備するものでございます。

この候補地を選定した理由でございますが、左下になります。主には7点ございます。まず、公園の一部を病院用地としても、隣接する民有地を活用するとともに、現市民病院敷地を公園に転換することで、全体として公園面積は減少しないこと。それから2点目でございますが、現在の公園内にあります野球場は非常に不整形な形をしてございます。これを今の市民病院敷地を公園として、そこに野球場を再整備することによりまして、機能の向上が図れること。それから、後ほど写真でもご覧いただきたいと思いますが、この予定している場所は公園の中では比較的緑が少ない場所でございますが、そういう面では緑地の減少が最小限で済むこと。それから4点目でございますが、移転先が現在の市民病院から近く、診療圏や連携する病院・診療所等への影響が極めて軽微であると考えられること。5点目でございます。病院の立地としては横浜駅からより至近となり、利便性が向上すること。それから、病院と公園が一体となった災害対策機能の向上が図れること。最後に、病院と公園がそれぞれの機能を補完し合うことにより、高齢社会に向けました市施策の推進、にぎわいの創出などの効果が見込めること。こうした点を考慮して候補地を選定したものでございます。

資料の右側、4でございますが、「再整備基本計画の策定等について」としてございます。現在、候補地の選定と並行いたしまして、医療機能に係る基本計画の作成に取り組んでいるところでございます。来年度、平成26年度の上半期を目途に、構造設備計画とあわせまして、再整備基本計画としてまとめていきたいと考えてございます。また、その段階では当委員会の中でもご説明させていただきたいと考えてございます。その上で、平成26年度内に基本設計にも着手していきたいと考えてございます。

<参考1>といたしまして、開院までの全体的な流れを図でお示ししておりますが、現段階では、基本設計に着手してから6年ないし7年程度、開院までに時間を要する見込みと考えてございます。

それから<参考2>といたしまして、来年度、平成26年度の事業費を記載させていただいております。来年度は1億7100万円の事業費を予定してございまして、構造・設備計画の策定支援費、基本設計の業務委託、再整備候補地の測量とか調査、こういったことに取り組んでいきたいと考えてございます。

候補地のイメージをもう少しつかんでいただけますように、写真をご用意させていただいておりますので、恐縮ですが、パワーポイントのほうをごらんいただきたいと思っております。

これが現在の市民病院の全景、南側の上空から撮影した写真でございます。ちょっと見にくいのですが、ここが正面玄関ということになります。これを見ますと、全体的には病棟などが非常に入り組んだ様子が見てとれるかと思っております。

これは逆に西側から撮った写真でございます。こちら側が病院、それから道路を挟んで反対側に駐車場とか看護師の宿舎がございます。何棟か建物が建っておりますが、この中で一番古い建物がこのがん検診センターになります。地下1階、地上4階の構造物でございまして、昭和56年3月に竣工しておりますので、32年ほど経過してございます。一番新しい建物が西病棟ということになります。地下2階、地上5階建ての構造物でございます。平成3年8月に竣工しておりますので、それでも22年ぐらい経過してございます。

これは新病院の候補地と、それから病院側から横浜港を臨んだ写真ということになります。ちょっと切れかかっていますが、ここが現市民病院でございます。ここが三ツ沢公園で、それを挟んで候補地がございます。横浜駅がこのあたりということになります。写真ではわかりませんが、ここをバス通りが走っておりまして、今度、病院の正面にバスが通るといふ立地になります。横浜駅からも至近になりますし、バス便も多くございますので、そういった意味では利便性が向上するであろうと考えております。

これも現病院と候補地の位置関係を示したものでございます。現病院がこちらでございまして、候補地がこちらになります。この間が三ツ沢公園でございます。これが陸

	<p>上競技場、これがニッパツの三ツ沢球技場になります。この間、直線距離にして約 500 メートルということで、そういう点では候補地が至近にございますので、先ほど申し上げましたように、連携する病院・診療所等への影響が比較的軽微ではないかと考えてございます。</p> <p>これは候補地の周辺の航空写真でございます。今、黄色い線で囲んだ部分を病院敷地として活用したいと考えてございます。ここの部分と、それから道路を挟んで下の部分が古河電工の社宅ということになってございます。ここが今三ツ沢公園の野球場ということになっておりますが、レフト側が 87 メートル、ライト側が 66 メートルという、写真で見てもわかるかと思いますが、非常に不整形な形をしてございます。この野球場を現在の市民病院の跡地に再整備することによりまして、できるだけ整形な形の野球場にしたいと考えてございます。また、ご覧になっていただいてわかるかと思いますが、公園と隣接してございますので、災害時などにはこういった陸上競技場あるいは公園のスペースを活用した災害対応も可能になりますので、そういう意味では病院と一体となった災害対策機能の向上が図れるものと考えてございます。</p> <p>事務局からの説明は以上でございます。よろしくお願ひします。</p> <p>○田中委員長 ありがとうございます。夢が膨らむ話です。東京オリンピックと競争しながら進めていく時間スケジュールになります。では、ただいまのご説明に対して、ご質問なりご意見なりがありましたらお願いいたします。</p> <p>現有地建替えでないから、機能は、病棟が半分になってしまうとか、そういう時期がなくて済むわけです。そこが大きいと思います。</p> <p>○松原委員 松原委員、お願いします。</p> <p>ちょうどオリンピックの直前ぐらいにできるような形で、コストが非常に高くなるときに建てられると思うのですが、予算を立ててから実際やってみて、極端な話、倍になったとかというときは、どのように対応なさるのでしょうか。</p> <p>○城局長 オリンピックとどう重なるかは、まだ公園が都市計画施設ですので、都市計画決定の変更という手続があったり、その前にまず用地買収を今交渉しておりますので、そこが整うといったことがあります。オリンピックの前になるか後になるかはちょうど微妙な感じはしておりますが、前回もお話ししましたが、事業費については基本的には企業債で全部資金調達をして、その元金の返済について 2 分の 1 を一般会計からの繰入れをいただけるというルールのものでやるわけですが、一般会計側からすればその繰入れが高くなっては困るという話があります。それから我々としても、残りの 2 分の 1 の返済を自分たちできちんとできることが前提になります。ですから、そういう枠組みの中で、今後の工事費等の増嵩の状況も見きわめながら事業計画を精査していくと、その時期がこれからなのかなと思っております。</p>
--	---

	<p>○田中委員長 よろしいですか。この時期の公共事業は公共建築・土木事業とも、皆同じ環境下で皆さん大変だと思いますが、工夫をしなくてはなりません。</p>
	<p>○城局長 この社宅は現在使われているのですか。 現在でも半分ぐらい、それよりも少し多いかもしれませんが、お住まいで、まだ会社として使用している社宅でございます。</p>
	<p>○田中委員長 社宅だと入居者の権利はないのですね。</p>
	<p>○城局長 我々の交渉相手は会社1つだけでございます。</p>
	<p>○田中委員長 権利は民間のアパートとは違う。</p>
	<p>○城局長 そうです。</p>
	<p>○田中委員長 借地権が発生しているタイプのものではない。</p>
	<p>○城局長 あとは社内の問題としてやっていただくということになります。</p>
	<p>○田中委員長 五十嵐先生、お願いします。</p>
	<p>○五十嵐委員 ここの場所ということではほぼ決まりみたいなイメージで出ているのですが、用地取得の交渉に当たって、別の選択肢の整備計画もあり得るのでみたいな、そういったものはないのでしょうか。皆消えてしまっていて、ここでというイメージなののでしょうか。</p>
	<p>○城局長 平成24年度からずっと検討してきているわけですが、その中では4カ所、現地の建替えも含めると4方面5カ所検討してまいりました。現実的には3万平米という土地を病院の今の医療圏を壊さない範囲の中で見出すことは難しいという結論になりまして、今回、公園という市有地に一部を活用しながら民有地を購入するという事で交渉しております。</p>
	<p>○五十嵐委員 そうすると条件的に、例えば地価よりも相当高いものを先方が提示するという話になったときには、それは余りにもということであきらめて、この計画そのものがゼロベースでやり直しという形になることもあり得るということでしょうか。</p>
	<p>○城局長 市が土地を購入する場合は、土地の価格については相手方の言い値ということではなくて、条例で設置した財産評価審議会という、外部の鑑定士の方とかが入った方々に評価していただくというシステムがあります。したがって、土地の価格については財産評価審議会の鑑定評価に従った値段で交渉すると。ただ、今回の場合は人が住んでいるという部分がございます、それから建物があると。こちら辺の補償の部分について、相手方と基本的には交渉していくこととなります。</p>
	<p>○田中委員長 いかがですか。どうぞ、篠原委員。</p>
	<p>○篠原委員 選定理由をずっと見ていますと、申し分のない土地という感じがするのですが、ここの土地であえて問題があるとすると、決定までの間に何かありましたでしょうか。</p>
	<p>○城局長 4方面の中でいえば比較的欠点のない土地だとは思いますが、1つあるのであれば、隣がニッパツのサッカー場なのです。ですから、試合のときに影響のないような構造整備が求められるだろうということですか。</p>
	<p>○田中委員長 大歓声が病院の中に鳴り響いてしまったり、照明もそう</p>

	<p>ですね。</p> <p>○城局長 サッカーの試合というのは年間の中でそんなに長い時間やっているわけではないのですが、やはりそのときの対策は構造面で求められるだろうと思います。それから、道を隔てている部分は、どういう使い勝手をするのかということがあります。病棟と管理棟みたいなイメージで渡り廊下でつなぐのかとか、そういう使い勝手の部分でいえば、若干設計に制約がでるだろうとは思っております。ただ、利用者から見れば、アクセスの面とか、この表通りになりますので、今、市民病院の前まで来るバスは1時間に4本、15分置きなのですが、ここの表通りは1日890本ぐらいバスが横浜駅から通っておりますので、どの方面に乗ってもここを通る形になりますので、きちんとバス停からのバリアフリーのアクセスを整備すればかなり利便性の高い病院になるのではないかと感じております。</p> <p>○篠原委員 ありがとうございます。</p> <p>○田中委員長 ほかにいかがでしょうか。いずれこの委員会では医療機能にかかわる基本計画についても審議することになるわけですね。</p> <p>○新井部長 前回のこの委員会で骨子についてお諮りいたしました。その後、素案という形で書き込み作業を現在進めているところです。この素案につきましては、次回、5月ぐらいになるかと思いますが、また改めてこの委員会にお諮りさせていただいて、ご意見を賜りたいと思っております。</p> <p>○田中委員長 よろしいですか。院長もせっかくだから何か一言言われますか。特にございませんか。</p> <p>○石原病院長 今の基本計画につきましては、今かなり細かいところまで、院内での各部署の意見を聞いたり、それからいろいろな病院も見学させていただいた上でまとめておりますので、次回にまたぜひご意見を伺いたいと思っております。それから、私としてはなるべくこの場所で、何方面かで検討していただきましたが、やはり院内での意見の方向性がある程度決めていくのに、具体的な場所が決まりませんと先にイメージしにくいということがありますので、ぜひこの三ツ沢公園の一部を使用した場所ということで話を進めていただきたいと思います。医療機能、特に現病院が、問題は老朽化ということより狭隘化ということが非常に切実な問題として現在ございます。市民に適切な良質な医療を提供するという観点からいいますと、限界がかなり近づいてきておりまして、今の病院でできる年限も限られているだろうというのは本当に実感としてございます。ですので、6～7年後ということですが、私としてはその中でもできるだけ早く新病院に移りたいというのが希望でございます。</p> <p>○田中委員長 ありがとうございます。確かに、最近の新しい病院はどんどん手術室が増えています。</p> <p>他に、意見はよろしゅうございますか。では、本日はいただいた疑問点や意見を踏まえて、今後の検討に反映していただき、次の回に計画についてまた議論いたしましょう。</p>
--	---

	<p>ありがとうございました。</p> <p>(3) その他</p> <p>○田中委員長 ○松原委員</p> <p>では、議事(3)「その他」ですが、これは松原委員から一言お願いします。</p> <p>このたび、来月より中央社会保険医療協議会の委員に就任することになりました。その関係でこちらの委員はやめなければいけないことになってしまいました。任期途中で大変申しわけなく思っております。また、今回の委員会でも検討されていますように、これから新しい名称をつくるか、建て替えるとか、非常に夢のあるお話のときにやめなければいけないということで、本当に残念に思っております。思い返しますと、私はこの委員会の前身である経営委員会から参加させていただきまして、そのとき私はまだ出産4カ月のときでして、乳飲み子を抱えながら委員会に一生懸命出させていただいたのを覚えております。うちの子供ももう5歳になりましたので、5年以上かかわらせていただきまして、本当にいろいろと勉強させていただきました。本当にありがとうございました。会の中では、厳しいことを言ったこともあったらと思うんですが、ひとえに横浜市立病院が少しでも市民のための病院になるようにと頑張ったことでしたので、ご容赦いただければと思います。本当に任期途中で心苦しいのですが、いろいろと勉強させていただきまして、ありがとうございました。</p> <p>○田中委員長 ○高橋病院事業管理者</p> <p>どうぞ。</p> <p>先生、本当にどうもありがとうございました。前回の委員会からずっと引き続き忌憚のないご意見をいただきまして、時には耳をふさぎたくなるようなこともありました。本当に私どもにとってはありがたいことだと思えます。このたびは中央社会保険医療協議会の委員ということで、おめでとうございませうという言い方は悪いのですが、私も診療側の一部ですけど、ぜひ診療側に優しい中央社会保険医療協議会であってほしいと。国民のため、横浜市民のためにも、ぜひ先生のご見識を生かしてご活躍いただきたいと思えます。長いこと、どうもありがとうございました。</p> <p>○田中委員長</p> <p>ありがとうございました。国会承認人事であり、極めて時間をとる委員会なので、兼務が割と厳しく制限されますのでやむを得ないことだと思えます。松原委員、これまでどうもありがとうございました。</p> <p>○原田課長</p> <p>では、事務局からほかに何かございますか。</p> <p>毎回のご連絡で恐縮でございますが、本日の議事内容につきまして、後日、議事録としてまとめまして、内容のご確認をお願いしたいと思います。1カ月後に公表させていただきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。</p> <p>それから、次回の委員会及び脳血管医療センターの部会の日程でございますが、特に部会のほうにつきましては、先ほどご説明申し上げましたとおり、できれば3月中に第</p>
--	---

	<p>1回を開催したいと考えてございますので、早急に調整させていただきたいと思ひます。また別途、個別にご連絡させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>以上でございます。</p> <p>○田中委員長 ありがとうございます。部会の委員になられる方々、早速のようですが、どうぞよろしくお願いいたします。こちらの委員会は、今、松原委員の言われたように、病院の建替え、それから脳血管医療センターの名称変更という前向きな話を、松原委員に笑われないように進めていかなくてはけませんので、頑張りたくと存じます。松原委員は中央で公益委員としてしっかりと活躍してください。</p> <p>本日予定していた議事は以上でございます。</p> <p>閉 会</p> <p>○田中委員長 これをもちまして、第4回横浜市立病院経営評価委員会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。</p>
--	--

<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>I 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【資料1】 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市立脳血管医療センターの病院名称について（諮問） ・脳血管医療センターの医療機能拡大 ・脳血管医療センターの病院名称変更について ・横浜市立病院経営評価委員会運営要綱（案） ○【資料2】市民病院の再整備用地等について <p>II 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1か月以内に会議録は公開し、資料とあわせ閲覧に供し、ホームページに掲載します。
---------------------------	--